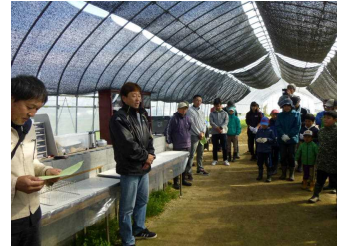


## アジア・アフリカ支援米「第2回収穫祭」の開催

連合北海道と食・みどり・水を守る道民の会は10月3日、アジア・アフリカ支援米「第2回収穫祭」を空知管内由仁町の三田村農場において開催し、組合員とその家族など41名が参加した。



アジア・アフリカ支援米の取り組みは、これまで食料不足に苦しむカンボジア・マリに対し、支援米作付けや茶碗一杯のコメ・カンパ活動などによって進めてきたが、それに加え昨年度より、食料の重要性や農業体験を通して農業促進の必要性などを感じ取ってもらおうと「稲刈り」体験を実施している。



開会式では主催者を代表して、道民の会高倉司会長より「今回回収穫した米は、責任をもってマリやカンボジアに送らせてもらう。皆さんも飢餓に苦しむ人達に思いを馳せながら、頑張ってお収穫作業をしてほしい。」と挨拶がされた。また、全農林北海道ブロック協議会芳賀郁夫議長は、「昔は北海道は米のできない地域だったが、今はこうして立派な米が生長するようになった。生産者の方達の努力の歴史を感じながら作業をしてほしい。」と述べた。

参加者は、協力農家の三田村雅人さんより作業内容などについて説明を受けた後、自分達が植えた稲の成長に驚きながら、鎌を使い手作業で一株ずつ刈り取っていった。その後、新米やジンギスカンを囲みながら、懇親を深めた。

この日収穫した支援米は、来年2月に、カンボジア・マリに送る予定となっている。

